

全文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

凡例および注意点

凡例：

① = 大問番号 ❶ = 段落番号 ❶ = 文番号

構造 = 【構造】

主 = 主語（部） 動 = 動詞（句） 目 = 目的語（句・節） 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節） 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

*❶ = 【解説】とくに注意を要する箇所の指摘および解説

暗例 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

語句 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

全文構造解説

I

1 ① The English language is currently the world’s most common language, but language expert Gaston Dorren believes its reign may come to an end.

構造 **主** The English language **動** is **副** currently **補・名** **①** the world’s most common language, 「英語は現在、世界でもっとも一般的な言語である」 **接** but **主** language expert Gaston Dorren **動** believes 「しかし、言語の専門家であるガストン・ドレンは信じる」 **目** **②** [**主** its reign **動** **③** may come to an end], 「その統治は終わるかもしれない (ということを)」

*1：be 動詞は主格補語をとる代表的な動詞で、内容的に〈主語＝補語〉が成立する。補語は名詞が形容詞だが、ここでは名詞。

*2：文の冒頭に that を置くことで、その文を名詞節に変換できる。例えば、He is leaving tomorrow. 「彼は明日出発する。」という文の冒頭に that をつけると、that he is leaving tomorrow 「彼が明日出発するということ」という名詞節に変換でき、例えば、**暗例** I didn’t even know that he is leaving tomorrow. 「彼が明日出発するなんてまったく知らなかった。」のように、動詞 know の目的語 (必ず名詞) にそのまま組み込むことができる。このような名詞節を〈that 節〉という。believe や think などの動詞は目的語に名詞節をとることが多く、ここでのように that が省略されることも多い。

*3：本書では、動詞を意味や内容のまとまりとして扱う。例えば、助動詞や副詞 not などは動詞のまとまりに含める。ここでは、文法的には may come が動詞、to an end は〈前置詞＋名詞〉なので原則として副詞句になるのだが、内容的には come to an end で「終わる」という意味のまとまりなので、これを動詞として解釈している。

語句 currently [kʰɔːrɒntli | カーレントリ] **副** 「現在」、common [kámən | カモン] **形** 「共通の、一般的な」、expert [ékspɔːrt | エクスパート] **名** 「専門家」、Gaston Dorren [gæstən dɔːrən | ガストン ドーレン] 「ガストン・ドレン (オランダ在住の言語学者でジャーナリスト)」、reign [réin | レイン] **名** 「統治、(比喩的に) 支配」、come to an end 「終わる」

2 ① But it isn’t because another common language, like Mandarin, is primed to take its place.

構造 **接** But **主** **①** it **動** isn’t 「しかしそれはそうではない」 **補・名** **②** [**接** because 「なぜなら」 **主** { another common language, like Mandarin }, 「(標準) 中国語のような、別の一般的な言語が」 **動** is primed to take **目** its place], 「その地位を奪う準備ができています」

*1：代名詞 it は、前出の、具体的な単数名詞を指すこともあれば、述べられた内容自体を指すこともある。ここでは前の文の、「ガストン氏がそのように言ったこと (理由)」を表す。

*2：接続詞 because が導く節は〈理由〉を表す副詞節になることが多いが、主語に理由 (the reason) に相当する内容を含む場合、補語となる名詞節になることがある (正式には because ではなく that とする)。意味は直感的に理解できるだろう。なお、〈節〉とは〈主語＋動詞〉構造を中心として含む意味のまとまりのこと。そうでない意味のまとまりを〈句〉という。

語句 Mandarin [mændərɪn | マンダリン] **名** 「(標準) 中国語」、be primed [praɪmd | プライムド] to do 「～する準備ができています」

② Rather, Dorren believes that innovations in translating software and technology may dispel the need for

大問 **I** 段落 **1** 文 **①**
段落 **2** 文 **①～②**
段落 **3** 文 **①～②**

learning multiple languages altogether.

構造 **副** Rather, 「むしろ」 **主** Dorren **動** believes **目** [**接** that 「ドレンは～ということを信じる」 **主** innovations in translating software and technology 「翻訳ソフトウェアや翻訳技術における革新は」 **動** may dispel 「打ち消すかもしれない」 **目** { the need for learning **目** multiple languages } **副** altogether], 「複数の言語を学ぶことの必要性を、すっかり」

語句 rather [ræðər | ラダ] **副** 「むしろ、そうではなく」、innovation [ɪnəveɪʃən | イノヴェイション] **名** 「革新」、translate [trænsleɪt | トランスレイト] **動** [翻訳する]、software [sɔːftweər | サフトウェア] **名** 「ソフトウェア」、dispel [dispél | ディスベツ] **動** 「打ち消す」、multiple [mʌltɪpl | マウティブウ] **形** 「複数の」、altogether [ɔːltəgeðər | オーウツゲダ] **副** 「まとめて、すっかり」

3 ① The hope is that translation software will inevitably translate a person’s language in real time.

構造 **主** The hope **動** is **補・名** [**接** that 「その望みは～ということだ」 **主** translation software **動** { will **副** inevitably translate } **目** a person’s language 「翻訳ソフトウェアは、必然的に、人の言葉を翻訳するだろう」 **副** in real time], 「リアルタイムで」

語句 inevitably [ɪnévətəblɪ | イネヴィタブリ] **副** 「避けられず、必然的に」、real time 「リアルタイムで、同時に」

② Known as the “Babel Chip,” named after the translating Babel fish from popular sci-fi novel *The Hitchhiker’s Guide To The Galaxy*, this device would not only shirk the need for learning another language, but it would abandon the need for translators as a whole.

構造 **副** [**過分** **①** Known **副** as the “Babel Chip” **②**, ” 「『バベルチップ』として知られているが」 **過分** named **副** after the translating Babel fish from popular sci-fi novel *The Hitchhiker’s Guide To The Galaxy*], 「人気のある SF 小説『銀河ヒッチハイクガイド』からの、翻訳するバベルフィッシュにちなんで名付けられたのだが」 **主** this device **動** **③** would not only shirk **目** { the need for learning **目** another language }, 「この装置は別の言語を学ぶ必要を逃れさせるだけでなく」 **接** but **主** it **動** would abandon **目** the need for translators **副** as a whole. 「翻訳者の必要そのものを捨てるかもしれない」

*1：分詞 (-ing 形や -ed 形) には形容詞用法と副詞用法があり、副詞用法を〈分詞構文〉と呼ぶことがある。分詞構文とは、副詞節において、主節と同じ主語を省略し、動詞を現在分詞に変える表現。as のような意味の弱い接続詞は省略されることもある。ここは本来、As this device is known as the “Babel Chip,” 「この装置は『バベルチップ』として知られており」となるが、接続詞 As と主節の主語 this device が省略され、動詞 is を現在分詞の being に変え、さらに受動態の being が省略され、結果、過去分詞 Known で始まっている。

*2：コンマ (,) は、直前で述べた内容に情報を追加するときに使われる。とくにコンマで挟まれた部分は挿入語句となりは、いったん括弧で囲むと、文全体の構造が理解しやすくなるだろう。ここでは、過去分詞 named 以降が直前の固有名詞 the “Babel Chip” を後ろから修飾する形 (〈後置修飾〉という) で、名詞を修飾しているので分詞の形容詞用法である。

*3：助動詞 would は will の過去形だが、現時点での〈控えめな推量〉「～かもしれない」を表す。なお、続く動詞には not only A, but (also) B 「A だけでなく B も」の相関表現が使われている。この A と B には、語と語、節と節など、さまざまな同等のものが入る。ここでは shirk 以降と abandon 以降を相関させている。

語句 name O (C) after ～ 「～にちなんで O を (C と) 名付ける」、Babel fish [bébəl fɪʃ | バベウ フィシュ] 「バベルフィッシュ (※小説に登場する、小型コンピューターに搭載された言語翻訳機能の名称。ちなみに旧約聖書の創世記によると、天に届くバベルの塔を建てようとした人間を罰するために、神はさまざまな言語を人間に与え、互いの意思疎通を阻んだという)」、popular [pɒpjələr | パピュラ] **形** 「人気のある」、sci-fi [sáɪ-fáɪ | サイファイ] **形** 「空想科学の (= science fiction の略語)」、*The Hitchhiker’s Guide To The Galaxy* [hɪtʰaɪkərz - gæləksɪ | ヒチハイカズ - ゲラクスイ] 「『銀河ヒッチハイクガイド』 (英国作家ダグラス・アダムズによる SF 小説シリーズ。バカバカしさに定評がある)」、device [dɪváɪs | デイヴァイス] **名** 「装置」、shirk [ʃɜːrk | シャーク] **動** 「(責任などを) 逃れる」、abandon [əbændən | アバンドン] **動** 「捨てる、あきらめる」、as a whole [hául | ホウウ] 「全体として」

4 ① And we’ve already come close to various iterations of this idea.

構造 **接** And **主** **動** [we’ve **副** already come close to] **目** **①** various iterations of this idea. 「そして、私たちはこの考えのさまざまな繰り返しにすでに近づいている」

*1：直訳すると内容が理解しづらいが、「この考えにさまざまな形で繰り返し近づいている」というイメージをつかむとよいだろう。

語句 come close [klóus | クロウス] to ～ 「～に近づく」、various [véəriəs | ヴェアリアス] **形** 「さまざまな」、iteration [ɪtəreɪʃən | イタレイション] **名** 「反復、(ソフトウェアの) パージョン」

② Google recently unveiled its new “Interpreter Mode” for the Google Assistant app which can translate more than 27 languages in real time.

構造 **主** Google **副** recently **動** unveiled 「グーグルは最近、公表した」 **目** [its new “Interpreter Mode” for the Google Assistant app 「グーグルアシスタントアプリ用の、新しい『通訳モード』を」 **関代** **①** which **動** can translate **目** more than 27 languages **副** in real time], 「27 言語超をリアルタイムで翻訳できる」

*1：関係代名詞 which。関係代名詞は、文を名詞節に変換するときに使われる記号。ここでは、“Interpreter Mode” can translate 27 languages. 「『通訳モード』は 27 言語を翻訳できる。」という文を、“Interpreter Mode” which can translate 27 languages 「27 言語を翻訳できる『通訳モード』」という名詞節に変換したもの。先行詞の “Interpreter Mode” はもとの文の主語に当たるので、関係代名詞 which は主格となる。

語句 Google [gúːgl | グーグウ] **名** 「グーグル (※米国の世界的 IT 企業)」、recently [rɪːsntli | リースントリ] **副** 「最近 (ふつう現在完了形か過去形で使う)」、unveil [ʌnvéɪl | アンヴェイウ] **動** 「公表する (un 「反」 + veil 「ベールで覆う)」、interpreter [ɪntɜːrprətər | インタープリタ] **名** 「通訳者」、mode [móud | モウド] **名** 「モード、状態」、assistant [əsɪstənt | アシスタント] **名** 「助手」、app [éɪp | アプ] **名** 「アプリ (= application

大問 **I** 段落 **4** 文 **①～②**
段落 **5** 文 **①**
段落 **6** 文 **①～②**

program)」、more than ～ 「～より多く、～超」 (※日本語の「以上」は、厳密にはその数を含む。例えば「3 以上」は「3 を含めて、3 より大きい」数のことを表す。more than 27 は、厳密には 27 を含まず、「28 以上」の意味。例えば国家人口などの大きな数のときには、more than を「以上」と訳しても問題ない)

5 ① “Learning languages will still be valuable for all sorts of cultural and psychological reasons, but the majority won’t bother;” claims Dorren in an interview with news.com.au.

構造 **主** “Learning languages **動** [will **副** still be] **補・形** valuable 「言語を学ぶことはまだ価値があるだろう」 **副** for all sorts of cultural and psychological reasons, 「あらゆる種類の文化的、心理学的理由で」 **接** but 「しかし」 **主** the majority **動** won’t bother; ” 「大多数は気にしないだろう」 **動** **①** claims **主** Dorren 「と、ドレンは主張する」 **副** in an interview with news.com.au. 「(ニュース・ドットコム・エーユーのインタビューで)」

*1：引用符で囲まれた直接話法の部分を文の目的語に変換する表現。このとき、claims Dorren のように〈主語→動詞〉の順番に倒置が起こる。ただし、主語が代名詞のときには倒置は起こらない。

語句 valuable [vɛljəbl | ヴァリアャプウ] **形** 「価値がある」、sort [sɔːrt | ソート] **名** 「種類」、cultural [kʌltʃərə | カウチュラウ] **名** 「文化的な」、psychological [saɪkələdʒɪkl | サイコラヂジカウ] **形** 「心理学的な」、majority [mədʒɔːrəti | マヂョーリティ] **名** 「大多数」⇒ minority [maɪnɔːrɪti | マイノーリティ] **名** 「少数」、bother [báðər | バダ] **動** 「気にする、悩ませる」、claim [kléim | クレイム] **動** 「主張する」、news.com.au 「(ニュース・ドットコム・エーユー (豪州のニュースウェブサイト。au は豪州の国別トップレベルドメイン))」

6 ① This could benefit a wide range of industries, particularly travel and customer service.

構造 **主** This **動** could benefit **目** a wide range of industries, **副** particularly travel and customer service. 「これは、幅広い産業、とくに旅行や顧客サービス (の産業) に利する可能性がある」

語句 could [kúd | クド] **助** 「～する可能性がある (現在の弱い推量)」、benefit [bénefɪt | ベネフィット] **動** 「利する」⇒ beneficial [benəfɪʃl | ベネフィシャウ] **形** 「有益な」、range [réɪndʒ | レインヂ] **名** 「範囲」、industry [ɪndəstri | インダストゥリ] **名** 「産業」、particularly [pɜːtɪkjələrli | パティキュラリ] **副** 「とくに」、customer [kʌstəmər | カスタマ] **名** 「顧客」

② Though children naturally have a host of language skills before the age of eight, children between eight and 12 begin to lose the ability to reproduce foreign languages.

構造 **副** [**接** Though **主** children **副** naturally **動** have **目** a host of language skills **副** before the age of eight], 「子どもは自然と、8 歳より前に、多くの言語スキルがあるが」 **主** children between eight and 12 「8 歳から 12 歳の間の子どもは」 **動** begin to lose 「失い始める」 **目** the ability to reproduce foreign languages. 「外国語を再現する能力を」

語句 a host [háust | ホウスト] of ～ 「多くの～」、skill [skɪl | スキウ] **名** 「技能、スキル」、reproduce [rɪprədúːs | リプロドウー